

One for Children, All for Children

久我山青光学園

学園便り 12月号

校長 宮田 守

令和7年11月25日発行

久我山青光フェスタ、いよいよ開催！

副校長 堀越 貴美子

昨年度から視覚障害教育部門と知的障害教育部門が合同で開催している久我山青光フェスタ。今年も11月28日（金）、29日（土）の二日間にわたり行われます。発表に向けた練習はもちろんのこと、作品を見合ったり、予行練習で発表をオンライン鑑賞し合ったりすることで、両部門の子供たちにとってすてきな交流の場になるよう全校で準備を進めています。

11月に入り、インフルエンザが流行し、本校でも一部学年が閉鎖になるなど心配な状況もありますが、本番に向けて、少人数で練習をするなどの工夫をしながら、教職員一同気を引き締めて取り組んでいます。子供たちも毎日久我山青光フェスタの話題で盛り上がり、教室を回っていると「今週末が待ち遠しい！」という雰囲気が伝わってきます。

各学年の演目については、フェスタニュースや学年だよりで御紹介していますので、ぜひ御覧ください。一人一人の「今できること」に焦点を当て、歌や踊り、音楽を取り入れながら、子供たちが自信をもって発表できるよう工夫しています。練習を重ねることで見通しを持ち、本番でやり遂げた達成感を味わうことができるのが、この久我山青光フェスタの魅力です。

今年も、子供たちのキラキラした笑顔や満足そうな表情を見られることを、心から楽しみにしています。保護者の皆様、地域の皆様、どうぞ温かい拍手で応援をお願いいたします。1年に1度の久我山青光フェスタです。ぜひ、お子さんたちと一緒に楽しい時間を過ごしてください。

視覚障害教育部門 幼稚部 「フェスタに向けて」
主任教諭 村上 庸子

5月、「大きくなーれ」「おいしくなーれ」と魔法をかけながら、園庭の畑にサツマイモの苗を植えました。毎日水をあげて、夏の間にぐんぐん成長したサツマイモ、ツルも驚くほど長く伸びました。サツマイモの収穫時期に合わせ、土の中のサツマイモの生活の様子が楽しく描かれた絵本「さつまのおいも」を読み始めると、子供たちはサツマイモ役になったり、いもほりに来た子供役になったりして毎日劇遊びを楽しむようになりました。先月は、絵本と同様にサツマイモと勝負のいもほりをして盛り上がり、収穫後も絵本の世界を楽しみながら、サツマイモを食べ、ツルで遊び、新聞で自分だけのサツマイモを作り、毎日サツマイモで遊んできました。

フェスタではこの「さつまのおいも」を基にした劇を発表します。セリフや動きは毎日の劇遊びの中で子供たちが考え作りあげました。可愛いサツマイモ達の土の中の生活が、個性豊かに表現されています。また、自分だけのサツマイモ色を塗って作った衣装やお面にも是非御注目ください。

知的障害教育部門 中学部1年 「交流」
主任教諭 渡部 真

10月30日（木）、中学部1年生は烏山中学校との交流を行いました。

体育館にて、ボッチャとモルックを行いました。本校の生徒3名と烏山中学校の生徒3名の6名でチームを組み、対戦をしました。本校の生徒は授業で数回行ったことがありましたが、烏山中学校の生徒は初めての生徒もあり、ルールを確認してから取り組みました。上手く投げられたときには、ハイタッチをしたり、声を掛けてもらったりして嬉しそうにしている、和やかな雰囲気で行うことができました。ゲームが終わると道具の片付けも一緒に行うことができ、協力して取り組む姿も見られました。

普段とは違った雰囲気に最初は緊張した様子も見られましたが、徐々に緊張が解れていました。終了後は、「楽しかった」という声がたくさんあり、とても有意義な交流となりました。